

頁数	2014必携	2015必携
	7. 監督の選択権について	7. 監督の選択権について
P66	<p>(1) 野手が不正用具でプレイしたとき。 (3-3項〈効果〉3項、P34)</p> <p>(2) 不正交代をしたプレイヤーが守備のプレイをしたとき。 (4-7項〈効果〉7項、P44)</p> <p>(3) 不正投球を打者が打ったとき。 (6-1項~7項〈効果〉1~7項、P59)</p> <p>(4) 不正投手が投球した球を打者が打ったとき。 (6-12項〈効果〉12項、P62)</p> <p>(5) 捕手が打撃妨害をしたとき。 (8-1項4〈効果〉4、P73)</p>	<p>(1) 野手が不正用具でプレイしたとき。 (3-3項〈効果〉3項、P34)</p> <p>(2) <u>再出場違反したプレイヤーが守備でプレイをしたとき。</u> (4-6項3〈効果〉3、P45)</p> <p>(3) <u>無通告交代をしたプレイヤーが守備でプレイをしたとき。</u> (4-7項〈効果〉7項、P46~47)</p> <p>(4) 打者が不正投球を打ったとき。 (6-1項~7項〈効果〉1~7項、P61~62)</p> <p>(5) 不正投手が投球した球を打者が打ったとき。 (6-12項〈効果〉12項、P64)</p> <p>(6) 捕手が打撃妨害をしたとき。 (8-1項4〈効果〉4、P75)</p>
※改訂理由 昨年度のルール改正に伴い、修正すべき点が漏れていた。(2)を追加し、ルールに合わせ文書整理をおこなった。		
P75	打球の判定 ファウルボール コール・シグナル 球審は打球の方向を向き、両手を開いて高く挙げ “ファウル”とコールする。 塁審は打球の方向を向き、両手を開いて高く挙げ “ファウル”とコールする。(前の塁に走者がいる審判 員のみ同調のゼスチュアをして走者をとめる)	打球の判定 ファウルボール コール・シグナル 球審は打球の方向を向き、両手を開いて高く挙げ “ <u>‘ファウル’のコールとゼスチュアをする。</u> <u>(前の塁に走者がいる審判員のみ同調のゼスチュア</u> <u>をして走者をとめる)</u>
※改訂理由 文書を分かりやすく整理し直した。		
P75	外野飛球 (フェア)アウト コール・シグナル 捕球したときは“アウト”のコールとゼスチュアを をする 捕球しなかったときは、フェア地域のときはセーフの シグナルを、ファウル地域のときは“ファウル”とコール する。	外野飛球 (フェア)アウト コール・シグナル 捕球したときは“アウト”のコールとゼスチュアを をする 捕球しなかったときは、フェア地域のときはセーフの シグナルを、ファウル地域のときは“ファウル”の <u>コールと</u> <u>ゼスチュアをする。</u>
※改訂理由 文書を分かりやすく整理し直した。		
P79	守備と走塁 セーフ 姿勢と構え フォースプレイは離れて、タッチプレイは近づいて 見る。 送球を見定めて良い位置をとり、手を軽く握って膝 に置いて腰を落とし、停止して構え、プレイを注視する。	守備と走塁 セーフ 姿勢と構え フォースプレイは離れて、タッチプレイは近づいて、 <u>送球を見定めて良い位置をとり、手を敷く擦って太腿</u> <u>の付け根付近において腰を落とし、停止して構え、</u> <u>プレイを注視する。</u>
※改訂理由 文書を分かりやすく整理し、判定に備える姿勢と構えの手を置く位置を「膝」から「太腿の付け根付近」に変更した。		
P84	打撃妨害 オブストラクション コール・シグナル プレイの成立後、必要があれば“タイム”の コールとゼスチュアをし、適切な処置をする。	打撃妨害 オブストラクション コール・シグナル プレイの成立後、 <u>状況により</u> “タイム”の コールとゼスチュアをし、適切な処置をする。
※改訂理由 文書の整理・統一 走塁妨害(オブストラクション)の項目と文書表現を統一した。		
P84	走塁妨害 オブストラクション コール・シグナル プレイが一段落したのち、“タイム”の コールとゼスチュアをし、適切な処置をとる。	走塁妨害 オブストラクション コール・シグナル プレイが一段落したのち、 <u>状況により</u> “タイム”の コールとゼスチュアをし、適切な処置をする。
※改訂理由 文書の整理・統一 打撃妨害(オブストラクション)の項目と文書表現を統一した。		
P86	走塁違反 ラインアウト 姿勢と構え 野手がタッチしようとしたとき、走者が塁間を 結ぶ直線から0.91m以上逃げたかどうかを見極める。	走塁違反 反ラインアウト 姿勢と構え 野手がタッチしようとしたとき、 <u>走者と塁を結ぶ</u> <u>直線から0.91m以上逃げたかどうかを見極</u> <u>める。</u>
※改訂理由 ラインアウトの判定基準をより明確にするため、文書の整理を行った。		
P96	10. インターフェアランス (3) ボールデッドのシグナルを示したのち、 “ボールデッド”とコールする。	10. インターフェアランス (3) “ <u>ボールデッド</u> ”の <u>と</u> コールとゼスチュア <u>をする。</u>
※改訂理由 文書整理・表現の統一		